

2023年 年頭所感

総長 日高 義博



明けまして、おめでと
うございます。いまだコ
ロナ感染が収束しませ
んが、つつがなく新春を
迎えたことと存じま
す。正月の箱根駅伝で
は、ユニホームに伝統校
の証である「S」の一
文字を付けた選手たちが、
全力を尽くして箱根路を
駆け抜けました。今年
も、文武両道を旨とし
て、学生・卒業生の力
みながる活躍を応援し
たいと思います。

一昨年12月の総長就任
以来、「知の発信」に心掛
け、学内外のさまざまな
場所において講演を行
ってきました。どの会場
にも卒業生の姿を見るこ
とができ、また、さまざ
な分野でOG・OBの活
躍を見聞することができ
て、頼もしくかつうれ
しく思いました。

現在、大学は、生き残
りをかけた大学間競争の
時代に突入しています。
生き残るためには、専修
大学創立150年・石巻
専修大学創立40年に向け
た大学改革の目標を着
実に達成しなければなら
ません。そのためには、学
生、教職員はもとより、

学生・卒業生の光輝く活躍願う

ール専修の力を結集し、
共働意識をもって取り組
むことが必要です。特に
大学の総合力において私
大10位以内に入るという
目標は、何としても達成
しなければなりません。
教育・研究力の向上の
ためには、財政的基盤を
強固なものにしなければ
なりません。何よりも
「文武」の両面において
学生・卒業生の活躍が光
輝く存在になっていくこ
とが重要です。学生・卒
業生の活躍は、大学での
教育成果の証であり、多
様な人材を輩出している
か否かは、大学の総合力
を測る基準になります。

本学の場合、ただ入学
した、卒業したというだ
けでは、意味がありません。
建学の精神を背負った
専修人が、社会の中に
あっていかに社会貢献を
しているか、いかに信頼
性のある人物になっている
かが、本学の評価対象
なのです。厳しい大学間
競争の時代にあっても、
「社会の中であって社会
に立つ」人材を育成する
ことが本学の使命であり
ます。このことを肝に銘
じ、共に鋭意尽力して、
前に進みましょう。今年
も、学生・卒業生の活躍
する姿が光を放つことを
願いながら、さまざまな
場で専修スピリッツを説
き、知の発信に努める所
存です。

理事長 松木 健一



謹んで新年のお慶びを申し上げま
す。

昨年は新型コロナウイルス感染症
の影響が続いていたものの、4月か
ら対面授業が復活したことで、学生
の声が届くようになった。学生
が戻ってきました。学生の皆さんに
おかれましては、卒業、文化活動、ス
ポーツ活動等に遺憾なく力を発揮す
ることができたのではないかとと思
います。なかでも司法試験、公認会計

学長 佐々木 重人



謹んで新春のお慶びを申し上げます。
本学は、コロナ禍での活動レベ
ルを「レベル1」としながら新年を
迎えました。お正月の箱根駅伝で
は、皆さまから節度を保った熱いご
声援をいただきました。誠にありが
とうございました。選手諸君の力走
と陸上競技部の果敢な挑戦に改めて
敬意を表するとともに、感謝申し上
げます。

さて、入試や期末試験は1月中旬
以降、本格的に始まります。本学は、

教育と研究の充実を推進

士試験、国家公務員採用総合職試
験、国税専門官等の合格者数は昨年
度比して順調に推移しており、特
に公認会計士試験では3年次生の合

格者が増加しました。また、地域連
携による学生の社会貢献活動も継続
して行われたほか、学生のグローバ
ル活動、国際交流も本格的に再開さ
れました。参加した学生たちは多く
の知見を得て、将来のキャリア形成
に役立てることができたのではない
かと思えます。
カレッジスポーツでの活躍は私
たち専修人に勇気を与えてくれます。

第99回箱根駅伝出場をかけた予選会
では、経営学部3年次の木村曉仁選
手が日本人1位と激走し、ほかの選
手も力を出し切って本戦への切符を
勝ち取りました。1月2、3日は箱
根路を疾走する選手たちを多くの学
生、校友、育友、教職員とともに熱
く応援しました。よく頑張った、陸
上競技部!!

また、野球部、ラグビー部など体
育会各部も次のシーズンに向けた取
り組みを始動します。ウィンタース
ポーツはこれから本番です。各部
の更なる活躍を期待しています。専
大スポーツ強化へのご支援をお願い
いたします。

1880(明治13)年、米国に留学
した4人の若者たちによって創られ
た専修大学は今年、創立143周年、
そして1989(平成元年)に開学し
た石巻専修大学は創立34周年を迎
え、佐々木重人学長、尾池守学長のも
とでそれぞれに教育・研究の更なる
充実に取り組んでいます。予測困難
といわれる社会環境においては、課
題解決に向けて積極的に挑戦する多
様なグローバル人材の育成が一層重
要であります。また18歳人口の激減
期を見据えて積極的な学生支援を展
開するとともに、学生の成長を支え
るキャンパス創りを推進していか
なければなりません。そのためには財
政基盤の強化が不可欠となります。
今年も校友、育友、関係者各位の
ご理解をいただきながら本学の発展
に努めてまいります。引き続きオ
ール専修のご支援を賜りますようお願い
いたします。

今年取り組む八つの施策



この「レベル1」を当面継続しつづ
も、新型コロナウイルス感染症防止
対策に万全を期したいと存じます。
年頭にあたり、今年、当職として

特に取り組むべき施策について、以
下で記したいと思います。

第1は、創立140周年(202
0年)記念事業として実施された学
部・学科組織に関する諸改革の推移
を見守り、その実効性を加速させる
ことです。

第2は、24年度より「SIGRO
1カル・スマートキャンパス」の運
用が本格的に開始されるのを前に、
それに向けてデジタル環境整備に取
り組むことです。

第3は、22年度より全学部で開始
された「Siデータサイエンス教育
プログラム」の「基礎リテラシーレ
ベル」に加え、23年度には、全学部で
「応用発展レベル」を展開できるよ
う準備することです。

第4は、SDGsに関わる活動、
特に「カーボンニュートラル」実現
に貢献する大学としての取り組みを
強化することです。

第5は、本学が産学または産官学
間での連携の一翼を担いながら、学
問、文化、スポーツ等の切り口か
ら、地域貢献活動をより強化してい
くことです。

第6は、26年度に全学部一斉に予
定しているカリキュラム改正に向け
た調整準備に尽力することです。特
に二部教育に充てていた教育力を活
用して新たな教育サービスを生み出
すことに意を尽くしたいと思いま
す。

第7は、発信力と活力ある新学生
街の創出(神田神保町カルチャー
ン)を演出することです。特に景観
づくり(神田神保町桜プロジェクト
等)を工夫してみたいと思います。

さらに、前述の「Siデータサイエ
ンス教育プログラム」の進捗に合
せて、教員間や産官学で連携した
データサイエンス研究の拠点(生田
データサイエンスヒルズ)作りや、こ
の分野の人財育成の強化に関わる取
り組み(ネットワーク情報学部の入
学定員増等)も支援することです。

第8は、本学学生の進路支援「ト
リップル・サポートシステム」(キャ
リア形成支援、就職支援、資格・採
用試験支援)の強化と、体育会をは
じめとする課外活動で努力している
学生へのサポート体制を維持するこ
とです。
以上、本年もどうぞよろしくお願
いいたします。